

# 五稜郭 朝の散歩

函館に帰省した翌日、早朝に目が覚めた。いい天気。

そうだ、五稜郭に行ってみよう！



2022.10 島田祥生



家から10分ほど。母校の高校の前を過ぎて堀端へ。

風もなく、いい心持ち。

これから、ず〜〜〜っと、五稜郭タワーが付いて回る。

**五稜郭公園外周**  
ウォーキング・ランニングコース  
1周 1,815m  
→  
起点(正門右横)から  
700m地点です。  
函館市教育委員会



堀端には、このような案内板が100m毎にある。

ランニングは、左回りのルール。散歩は自由。



五稜郭には、表門と裏門の2本の橋がある。

ここには、橋はつけなかったようだ。

子どもの頃、フナ釣りに来たスポット。





70年前は、  
植樹したばかりの頼りない苗だった。  
このように立派に育って！





裏門に来た。

早朝から、散歩の人が絶えない。

右の石碑は、川田男爵が心血を注いだ、男爵イモを称えるもの。

男爵著を讃ふ

北海道帝國大學總長伊藤謙





カラスと遊んでいるのか、カラスに遊んでもらっているのか。

今日は、ポカポカした、格好の散歩日和。





堀をほぼ半周。

日が高くなってきた。





後背の、慣れ親しんだ山並みが見える。

中央が、標高1400mほどの横津岳。

みなさん、何かお気づきですよ。

そうなのです、彼女はシンクロしたみたいに、陵ごとにいるのです。



石垣の修理が続いています。

石には、

再現のための番号が



五稜郭の正門。

観光客もようやく戻ってきたようで、  
賑やかな秋が迎えられそうです。

箱館奉行所

午後7時で  
閉門いたします。



正門から望む、藤棚。

子どものころから、すでに立派でした。

向こうから、件の人が来る。

この五稜郭に興味があり、オランダから来て、  
特に、陵の石組みの見事さに感心したとのこと。

そういえば、この五稜郭のルーツは、オランダだった。





内部の土手の上から、正門を望む。  
ボートに乗るのも、いい気持ですよ。  
そろそろ、冬終いかな。

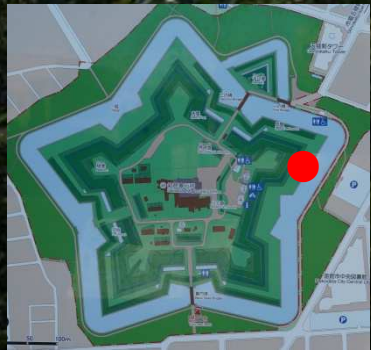


堀の内側から、帰り道を見る。

この辺りは、湿地だった。

真っすぐ行くと電車通りに出る。

そのちょっと手前の左に実家がある。



土手の上から、函館山が望める。

何とも言い難い、どっしりとした山容ですね。



今や、名所となった、桜の森。。  
すでに、相当なロウボクですが、  
まだまだ5月には、皆を楽しませてくれます。



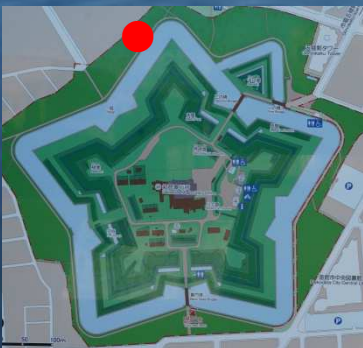


今や、五稜郭の目玉となった、再建された箱館奉行所。

大分、古色が出てきました。

土方歳三も、あの櫓の上から、戦況を見定めていたのでしょうか。





そろそろ、散歩も終わり。

2時間を過ぎ、日が高くなってきました。

正門の二の橋が見えます。



後ろの山並みがいいですね。

昔は、これほど木が茂っていませんでした。

地元の丹精ですね。





五稜郭の外と内をめぐって、1万3千歩余り。  
おなかが空いてきましたが、とてもいい散歩でした。  
また、ゆっくり巡れるのが楽しみです。

